

試験③の実施について

- 1. 試験③の概要 1
- 2. 試験項目 2

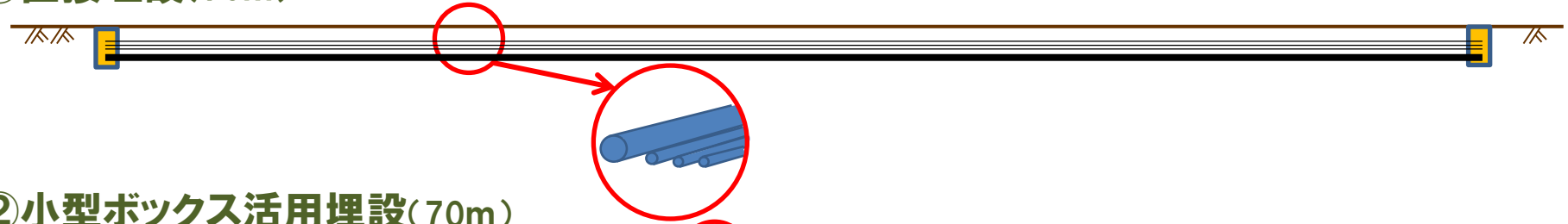
平成27年5月15日

1. 試験③の概要

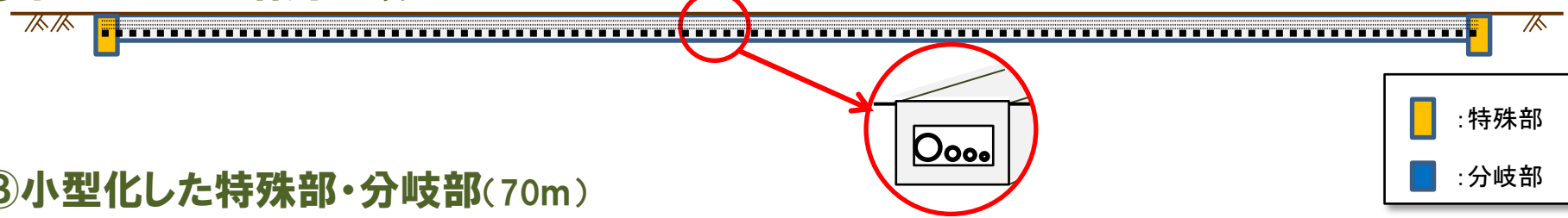
・（電力線と通信線の離隔が0cmで可能であることを前提として、）直接埋設、小型ボックス活用埋設の施工性を確認。

試験目的	直接埋設、小型ボックス活用埋設を現地で施工することにより、施工上の課題や配慮事項を確認
試験場所	一般国道49号阿賀野バイパス(水原バイパス)地内道路建設現場(新潟県阿賀野市)
実施時期	平成27年6月
試験内容	<ul style="list-style-type: none">・ 小型化された通常部や特殊部、分岐部を施工し施工性を確認・ 電力、通信ケーブルを敷設し、ケーブルの施工性を確認

①直接埋設(70m)

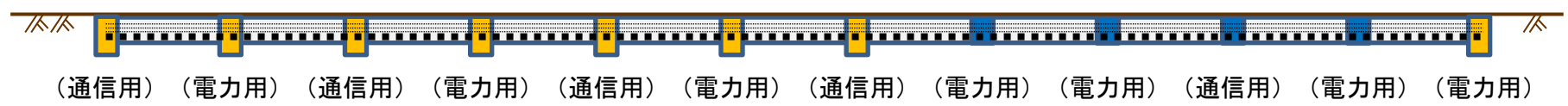


②小型ボックス活用埋設(70m)



■ : 特殊部
■ : 分岐部

③小型化した特殊部・分岐部(70m)



2. 試験項目(案)



Cライン

Bライン

Aライン

③小型化した特殊部・分岐部(Cライン)

- ・特殊部における施工上の課題や配慮事項を確認するため、特殊部、分岐部及び小型ボックスにおけるケーブルを敷設する。
- 【確認事項】
- ・特殊部、分岐部へ電力および通信ケーブルの収容が可能か
 - ・特殊部、分岐部での作業が可能か、他事業者への影響はどうか
 - ・引込分岐(電力)の作業性はどうか
 - ・作業員の人数はどの程度必要か
 - ・使用機材は適切か
 - ・電力用特殊部において、電力線(高圧)と通信線の離隔を確保できるか 等

②小型ボックス活用埋設(Bライン)

- ・小型ボックス活用埋設における施工上の課題や配慮事項を確認するため、小型ボックスを敷設した上で、各社(電力・NTT・CATV)のケーブルを敷設する。
 - ・ケーブル敷設に際しては、①蓋を開けた状態で敷設するケース(電力、通信)、②蓋を閉めた状態で敷設するケース(通信)を実施する。
- 【確認事項】
- ・ケーブルの敷設時間(作業準備から敷設完了までの時間)
 - ・ケーブルがボックス内に収まるか
 - ・作業スペースはどの程度必要か
 - ・他のケーブルが敷設された状態で通線器具を使用した通信ケーブルの敷設が可能か
 - ・通信ケーブルの引込線(引込分岐)の作業性はどうか
 - ・電力、通信それぞれのケーブル張替時の作業性と他事業者への影響はどうか
 - ・ケーブル敷設時の損傷状況はどうか
 - ・作業員の人数はどの程度必要か
 - ・使用機材は適切か 等

①直接埋設(Aライン)

- ・直接埋設における施工上の課題や配慮事項を確認するため、直接埋設用の溝を掘削し、各社(電力・NTT・CATV)がケーブルを敷設した上で埋戻しを行う。
- 【確認事項】
- ・ケーブルの埋設時間(道路掘削から埋戻しまでの時間を測定。作業帯設置の時間も含む)
 - ・ケーブルが掘削幅内で収まるか
 - ・作業スペースはどの程度必要か
 - ・ケーブル掘起しの際の作業性はどうか
 - ・埋設、再掘削時のケーブル損傷状況はどうか
 - ・作業員の人数はどの程度必要か
 - ・使用機材は適切か 等

